

第5回「地域フォーラム」概要
 開催テーマ テーマ1「健康・医療・介護」
 テーマ2「教育」
 日時 平成28年2月21日(日)9時30分～12時00分
 会場 五條市市民会館

【テーマ1】「健康・医療・介護」

挨拶・資料説明	荒井奈良県知事 地域フォーラム開催の挨拶 資料説明 ・奈良県の人口推移 ・奈良県の健康寿命 ・生活支援スマホの開発 ・地域医療構想の策定 ～効率的かつ質の高い医療体制の構築～ ・奈良県の2次医療圏 ・急性期の機能分化・連携体制の構築 ・過疎地域医療への対応 ・地域包括ケアシステムの構築 など
取組説明 ①	太田五條市長 五條市の現状と行政の取り組みについて説明 ・みんなが安心して暮らせるまちづくり(自転車や歩行者のための魅力ある空間の演出、快適な移動手段・空間の確保) ・五條市版地域包括ケアシステム など
取組説明 ②	杵本下市町長 下市町の現状と行政の取り組みについて説明 ・官・学・民と協働した健康寿命を延ばす取り組み ・住民と共に考え支えあえる地域づくり ・認知症になっても住める町づくり ・新病院(南奈良総合医療センター)とつながる医療・介護の体制づくり ・地域包括ケアシステムの体制づくり など
取組説明 ③	辻内黒滝村長 黒滝村の現状と行政の取り組みについて説明 ・健康ふれあい祭り ・元気ふれあい活動ポイント制度事業 など
取組説明 ④	車谷天川村長 天川村の現状と行政の取り組みについて説明 ・村の特定健診、後期高齢者検診の受診率アップに対する取り組み ・健康寿命を延ばす啓発活動 ・小規模多機能型居宅介護事業所の設置に向けての取り組み など
取組説明 ⑤	角谷野迫川村長 野迫川村の現状と行政の取り組みについて説明 ・ケーブルテレビ網を活用した安否見守りサービス ・安否見守りサービスによる地域や近隣での声かけのきっかけづくり など
取組説明 ⑥	更谷十津川村長 十津川村の現状と行政の取り組みについて説明 ・高齢者と若者が安全・安心に暮らせる村づくり ・「高森のいえ」と地域包括ケア など

<p>取組等 説明</p>	<p>奈良県立五條病院 松本院長</p> <p>テーマ「健康・医療・介護」について取り組み等説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南和地域公立病院新体制 ・南奈良総合医療センターの医療機能(重点的に取り組む分野) <ul style="list-style-type: none"> 救急医療 災害時における医療 へき地医療 専門医療 ・南奈良総合医療センター、吉野病院、五條病院の医療機能(重点的に取り組む分野) <ul style="list-style-type: none"> 高齢者、在宅医療 ・地域連携と在宅医療支援 など
-------------------	--

<p>意見①</p>	<p>荒井奈良県知事</p> <p>角谷野迫川村長が発言されました健康の見守りは、実は防災の見守り、あるいは防犯の見守りにつながるということは、県のほかの地域の研究でできています。見守りの基本は声かけだそうです。近所で声をかけられるところは、犯罪率が極端に少ないようです。地方で独居老人がおられるときに、声かけや見守りがあると全然違います。仮設住宅から自分の住居に帰られると、声をかけてくれる人がいない。また、何かのイベントで声かけがあるコミュニティーは防犯、健康だけではなく防災にもつながるといったようなことが報告されておりましたので、そのようなことを感じました。</p> <p>更谷十津川村長が発言されました「高森のいえ」は、地域包括ケアシステムをこのような地域でつくろうというモデル的な試みではないかと思えます。高く評価したいと思えます。家から出るか、施設に行くかどうかというのではなしに、施設に行くまでの中間的な居場所というものが要るように思えます。在宅の次にサービス付き高齢者向け住宅もありますが、農山村のほうでは、その地域の中で公営住宅に入って、周りのコミュニティサービスをサービス付き高齢者住宅並みにすることかと思えます。これは十分可能だと思いますし、高森モデルで進めていただくことは良いと思えます。</p> <p>松本院長のご発言に追加です。産婦人科は、県立医科大学と共通の電子カルテにして、南奈良医療総合センターに行っていたとしても、県立医科大学に行っていたとしても、部屋が違うだけという扱いにしようとしております。また3病院及びへき地診療所共通の電子カルテを導入します。今後、電子カルテの延長で、患者に一度なられた方に電子健康カードを持って帰っていただき、かかりつけ薬剤師がその電子カルテや電子健康カードをみると病歴が確認できる仕組みについても、これから関心を持ちたいと思えます。</p> <p>地域包括ケアシステムの重要な点は、ソフトの充実です。ケアマネジメント、ケアマネジャーをどうするか。退院指導をどうするかということと、訪問診療、在宅診療ができるかどうかということです。巡回で在宅医療の訪問診療ができれば、随分医療の水準が上がってくると思えます。</p> <p>角谷野迫川村長が発言されました慢性期の腎透析の通院についてですが、通院の足の便というのも我々の共通課題です。人工透析バスを走らせるなど、もしバス移送として効率的であれば、考えてはどうかと検討を指示しております。</p> <p>健康寿命について、農山村が悪いというわけではなく、何か地域の生活習慣や我々首長も含めて、住民の方が健康志向であればより良くなるのではないかと思えます。南奈良総合医療センターができますので、それを機会に南和が健康のトップを走るようにぜひしたいと思えます。</p>
------------	--

<p>意見②</p>	<p>太田五條市長</p> <p>南奈良総合医療センターが4月から開院するということが大変うれしいことです。しかし、本来は病院に行かないということが望ましいことです。そういうことでは、予防ということに大変重点を置いています。特に、がん検診になかなか行かない方に、1回行っていただけるような体制を構築するため、一昨年から頑張っております。受診することによって、予防ができ、それが一番大事と考えております。地域の皆さんが声をかけて、「行こうよ」というような取り組みがあれば、受診率が上がり大変効果も出てくると考えています。今後は予防に特に力を入れて進めてまいります。</p>
------------	---

意見③	<p>杵本下市町長</p> <p>高齢化になってくるなかで、いつまでも高齢者が元気で働けるような「らくらく農法」について説明させていただきます。</p> <p>「らくらく農法」のスローガンは「楽々でプラス10年、生き生き元気」ということです。地域のコミュニティを活発に持続していくというシステムで、奈良女子大学を中心とした官学民間、それぞれが協力合って実施されたプロジェクトです。住民の健康、農法、農機具の開発などを行い、このことから高齢者となって農作業ができなくなった方や、重たい物が持てなくなった方に新たな役割ができ、閉じこもりを防ぐことや目的意識を持つことによる認知症予防、「らくらく体操」による健康づくりに取り組むことができました。</p> <p>高齢者の「いきいきサロン」についてですが、現在は地域サロンの自主的な取り組みによって、高齢者の閉じこもりが全くなかったという地域もございます。高齢者が元気に暮らしていただける地域が増えてきたと感じております。これからも地域サロンの支援、育成を実施して、地域の自主的な介護予防に取り組んでいきたいと思っております。</p>
意見④	<p>辻内黒滝村長</p> <p>健康・医療・介護というテーマの中では、予防が一番大切だと思います。「ふれあいポイント」や「黒滝健康ふれあいまつり」は、お二人でお住まいされていた方のどちらかが亡くなられたときに、その人たちをどのようにして表に引っ張り出して、人と人の話ができるのだろうと考えているときに、地域においても、あるいは村において、色々なところに参加してくださいということで始めました。黒滝村の施設入居者は年々増えてきております。それが介護保険料に跳ね返ってきますので、少しでも元気なまま、ずっと過ごしていただきたい。女性と男性の健康年齢が上位と最下位になっておりますが、公民館活動を見ても女性の参加は非常に多いです。そのようなことから、健康年齢の要因の一つになっているのかというような感想を持っております。</p>
意見⑤	<p>車谷天川村長</p> <p>本村の高齢者の皆様は、あまり外出されない傾向にあるように思われます。天川村ではボランティアの方々が高齢者に配食サービスをしてきておりますが、もう一歩踏み込んで、お一人でご飯を食べる方々を外へ連れ出し、一緒に食事したり、ゲームをしたりなど交流を活性化させることが大事だと考えております。やはり、一人で食べるよりも、皆さんたくさん食べた方が食べ物も美味しいだろうと思っております。今後は、このような取り組みをやっていこうと思っております。</p> <p>人の顔を見るのが嫌だとか、あの人とは話したくないという方はいらっしゃいますが、シルバー人材など同じような年代の人たちが頻りに家を訪問し、日々の付き合いをもう少し深めていけば、もっと表に出てきていただけるのではないかなと思っております。</p>
意見⑥	<p>角谷野迫川村長</p> <p>普段からの声かけの重要性というのは、この前の大災害の時に確かにありました。村内の北股地区は普段から声かけをしていただいている地区で、80数名が30分で安否確認と避難ができました。改めて、普段からの声かけが大事だと感じました。</p> <p>安否確認の見守りサービスシステムですが、子供さんのところに2、3日行く場合、前もって役場に電話をいただけます。今までめったに役場に電話をすることはなかったが、そのような時にでも役場の人と電話で話ができるのは、うれしいという話もよく聞きます。普段からの声かけ、自分から積極的に電話をするというようなことも、このシステムの良いところで、さらに広めていきたいと思っております。</p>
意見⑦	<p>更谷十津川村長</p> <p>十津川村はやはり遠く、南奈良総合医療センターができて遠いと思います。重要なのは、そこまでのアクセスだと考えております。国道168号の整備とドクターヘリがあると、本当に多くの命が助かっているという現実がありますので、ぜひともこれらを進めていただきたいと思っております。</p>

意見⑧	奈良県立五條病院 松本院長
<p>周産期、分娩の話でございますが、しっかりと県立医科大学のバースセンターや総合周産期母子医療センターと連携し、医療情報をデジタルでつなぐ形で、早速この4月から、助産師外来、産科医もおられますので、ぜひとも妊婦さんがおられましたら、受診していただけたらと思っております。</p> <p>また、小児科診療につきましても、3人の専門家医がおりますし、色々なワクチンなどの事業も行います。特に小児科診療は19時までやる体制にして、夕方に学校から帰られてからでも対応できるように進めております。</p> <p>健康づくりでは、やはり人間ドックや脳ドック、そして乳がん検診、子宮がん検診などの検診事業を健康センターでも対応させていただくという形で、早期発見から早期治療を総合的に行っていきたいと思っております。さらに、回復期、慢性期、在宅へと総合的な医療提供ができるようにしていきたいと思っております。</p>	

総括	公立大学法人奈良県立大学 伊藤副理事長・学長
<p>地域包括ケアシステムとしては、もう盤石の体制ができつつあるということでした。それぞれの市町村では、地域に応じた取り組みがなされています。体制としては充実していることが分かりましたが、やはり一番大事なのは住民自身の意識だと思います。整備されたいろいろな制度やシステムに住民自身の意識をどのようにつなげていくかというところで、例えば角谷野迫川村長から発言があったように、ゆるやかなつながりが無ければこのような成果を実感できなくなってしまいます。そういう意味で、施設とサービスと、またそのサービスを受ける個人個人にどうやって結びつけていくのが課題だと思います。アクセスの問題や人口構成の問題など色々な問題があり、各地域の実情によって状況は異なっていると思います。</p>	

【テーマ2】「教育」

<p>挨拶・ 資料説明</p>	<p>荒井奈良県知事 地域フォーラム開催の挨拶 資料説明 ・奈良教育の状況(学力、体力、学習意欲、規範意識の状況) ・奈良県教育の充実に向けた取り組み 「奈良県総合教育会議」、「奈良県教育サミット」の開催 奈良県教育振興大綱(案) 規範意識・社会性の向上 体力の向上 キャリア教育の充実 奈良らしい就学前教育の検討 奈良県立大学シニアカレッジの開講 など</p>
<p>取組説明 ①</p>	<p>太田五條市長 五條市の現状と行政の取り組みについて説明 ・学校適正化の取組 ・生きぬく力の育成(学力、体力、規範意識の向上) ・(仮称)五條総合体育館等を活用したスポーツ振興の充実 など</p>
<p>取組説明 ②</p>	<p>杵本下市町長 下市町の現状と行政の取り組みについて説明 ・下市町の教育環境の状況 ・地域教育力の再構築 ・地域実態に即した教育展開 ・新たな教育の創造 など</p>
<p>取組説明 ③</p>	<p>辻内黒滝村長 黒滝村の現状と行政の取り組みについて説明 ・こども園の開設 ・施設一体型連携小中一貫教育 ・子育て世帯の経済的負担の軽減と支援 など</p>
<p>取組説明 ④</p>	<p>車谷天川村長 天川村の現状と行政の取り組みについて説明 ・園児、児童、生徒を取り巻く教育環境の整備 ・へき地小規模校のデメリットをメリットに変えていく取り組み ・伝統文化を学ぶ取り組み など</p>
<p>取組説明 ⑤</p>	<p>角谷野迫川村長 野迫川村の現状と行政の取り組みについて説明 ・野迫川村の小中連携一貫教育 ・野迫川村国際交流事業(スロバキア共和国との交流、グアム研修) など</p>
<p>取組説明 ⑥</p>	<p>更谷十津川村長 十津川村の現状と行政の取り組みについて説明 ・教育資源の宝庫(地域人材、豊かな自然、歴史) ・異業者間交流(幼・小・中・高)・地域連携(村行事・地域行事) ・少人数だからこそできる、きめ細かな指導 ・十津川村教育委員会の取り組み など</p>

取組等 説明	京都大学 大学院教育学研究科・教育学部 高見教授
	テーマ「教育」について取り組み等説明 ・就学前教育の必要性 ・米国におけるハイスコープペリー就学前教育プロジェクト ・就学前教育に対する政策介入の効果 ・就学前教育の重要性(公財政節約の手立て) など

意見①	荒井奈良県知事 高見教授が発言された就学前教育は大変重要だと思います。生まれつきの能力だけではなく、後天的に付け加えられる、しかも発達期に付け加えられるとする能力が極めて重要だと思います。感性をどのように育てるのか。水をあげるときにいい水をあげるのが教育の基本であろうかと思ひます、それには、就学前教育が非常に重要だということが分かってきております。教育の質をどのように高めるのかに、奈良県は取り組んでいきたいと思ひます。就学前は家庭により幼稚園や保育園等への通園先がことになっており、日本の教育の中で制度が混在しているところじゃないかと思ひます。 スクールバスの観点でございますが、角谷野迫川村長や更谷十津川村長は先生が少なく、中学校になると教科別の先生が必要になるので、先生が少なくなるというご発言がありました。しかし、少人数の中学生に各教科の先生を配置することは、なかなか難しいと思ひます。奈良県では、スクールバスを先生のために使うことができないかと思ひます。先生方が、とりわけ教科別の先生が毎日場所を変えてもいいのではないかと思ひます。先生が使うスクールバスです。これは訪問医療ではなく、訪問教育ということになります。そのようなことを実験できないかと思ひます。 田舎はスクールバスに乗るから体力がないんだという声を最近聞きますので、スクールバスを校門につけなくて、校門から1km離れたところにつけたらどうかということを提唱しています。これらの取り組みをうまく進めるには、我々行政と教育委員会とのかけ合いが大事だと思います。
-----	--

意見②	太田五條市長 子供たちを健やかに育てる環境づくりは、現在の6・3制が本当に良いのかという議論になってくるのではないかと思ひます。例えば4・3・2制や5・4制も踏まえて、議論をしていかなければいけないのではないかと思ひます。時代の背景によって、やはり変えるところは変えていく。昔ながらの形も守りつつ、やはり今の時代に応じた形で進めていくということが大変大事であると思ひます。 五條市におきましては、平成25年度は学力、体力とも非常に悪い状況でした。しかしながら、テーマを持って対策を講じることによって、平成26、27年度は良くなってきています。学校の先生や教育委員会、また地域と一緒にやってやることで、効果が上がってきたのではないかと思ひます。 今後、小学校の統廃合をするにあたって、おそらくスクールバスということになってくるのだらうと思ひます。スクールバスにすることによって、朝はそのままバスに乗って登校し、終わればすぐにまたバスに乗って帰ることが良いのかということも、今後は議論の中で考えなくてはいけないと思ひます。荒井知事からスクールバスについて、学校の1km手前で降りて歩くのはどうかという発言がありましたが、私も良いと思ひます。歩くということは体力にもつながっていくので、大変大事だと思います。そのような環境を整えるために、今後は地域と連携をしながら取り組んでいきたいと思ひます。
-----	---

意見③	杵本下市町長 太田五條市長から地域で育てるという発言がありましたが、やはり、昔は下校途中の道の角、角にうるさいおじさんがおり、よく叱られました。今はそういうおじさんがいなくなりました。タウンミーティングの際にも意見として出てくるのですが、子どもが少なくなっている中で、やはり町民みんなで自分の子どもと育てていかなければならないと言っています。 小中一貫校については、今後5年をめぐりに設置を考えていきたいと思ひます。 先ほどから英語教育の話がでておりました。特色ある教育というのは、英語も大事ですが、日本語も大事です。そして、ICTを取り入れて勉強をすることも必要かと思ひます。今後、下市町の教育大綱でも、そのようなことについても話し合っていきたいと思ひます。 そして、やはり一番大事なのは、就学前教育です。家庭でいかに小さいうちに色々なことを教えるかということが、一番大事ではないかと思ひます。
-----	--

意見④	辻内黒滝村長
<p>今年の4月から校舎一体型の小中一貫教育を始めます。私たちの大きなテーマは、子どもたちは村の財産だという中で、村の子は村で育てようとしております。色々な保護者の方とお話もさせていただきました。その中では賛否両論のご意見がありましたが、村に校舎一体型の小中一貫教育ができれば村に帰ってきますということで、昨年も我々の村に1人入学されました。今年の4月にも新しい1年生が入学されます。少しづつではありますが、村の将来とともに、これが一つ大きく結びついているのだろうという思いしております。</p> <p>就学前教育についてですが、昨日、こども園において発表会がありました。1歳くらいの子どもから小学校入学前の子どもたちが、世代や年齢が異なっても、そのような中で楽しくされている姿を見ました。今年の黒滝村の中学生は5人で、来年は3人になります。彼らが生徒会で少ない人数でも、一生懸命自分たちの役割を果たしたり、規則を守らなければいけないという思いから、村外の高校に進学しても、生徒会に入り活動しているということを聞きます。</p> <p>黒滝村に入ってからあるお母さんに聞いたお話です。自分たちの故郷は黒滝村ではないという事を話した時に、子どもさんたちから、自分たちの故郷は黒滝村であり、自分たちが守らなければ誰が守るのだということを聞いて、はっとしたということです。色々な決め事や、守り事をする事は、やはり地域が育てていかなければならないと改めて感じております。</p>	

意見⑤	車谷天川村長
<p>高見教授が発表された就学前教育については、大変参考になりました。三つ子の魂百までと言われるように、その部分が一生を決めるのではないかということが分かりました。</p> <p>天川村も児童生徒数は少なく、先生と生徒がマンツーマンの教育ができると思っているのですが、そのような中でも、いじめや不登校が学校で起きることが問題点となっています。学校教育は学校現場の先生たちが、少ない生徒なのでその分だけ目を光らせる分野があると思います。生徒児童数が少ない村で、いじめや不登校の問題は本来はなくていかなければいけないと思っております。保護者、PTAに関しても、みんな顔見知りばかりの地域の学校はまとまりよく、みんなで仲良くやっていかなければいけません。これは学校の教師も含め、行政もしっかりと見ていかなければいけないと思っております。</p> <p>村外から地域おこし協力隊も含めて、天川村に子どもを連れて住んでみたいという方々がたくさん来られている中で、教育問題、教育環境をどのようにするかということが、今の大きな課題となっています。</p>	

意見⑥	角谷野迫川村長
<p>昔からへき地教育については、へき地の特性を活かしてということがよくテーマにあがっております。本当にへき地に特性があるのだろうかと思っております。学校の先生の数もそうですが、法律自体、教科担任制を維持できる先生の数を保障していないことが、今の時代に良いのかと常々思っています。へき地の子供も都市部の子供も同じ教育を受ける権利があるのだから、その同じスタートラインに立てるようにしていくことが行政の仕事だと思っております。</p> <p>先生の指導力の問題が言われていますが、野迫川村では、その先生がいけないという状況が起こっておりますので、今後も引き続き課題解決に向けて取り組んでいきたいと思っております。</p>	

意見⑦	更谷十津川村長
<p>就学前教育については、今後しっかりやっていきたいと思っております。それが、Iターン、Uターン、あるいは地方創生につながっていくのだと確信しました。</p> <p>スクールバスの話もでしたが、十津川村では中学生になると寮に入らなければいけないこともあります。この現状に対して、ICTや交流事業などの対応をしなければいけない。子どもたちに同じ土俵で相撲をとれる環境を伝えていきたいと思っております。</p> <p>郷土愛や郷土に対する誇りを子どもたちに植え付けていかなければいけないと思っております。村にもう一度惚れ直させる。そういう教育が地方創生であると私は認識しております。</p>	

意見⑧	京都大学 大学院教育学研究科・教育学部 高見教授
	<p>各市町村長の発表を踏まえ、意見をまとめさせていただきました。学校適正化の問題は横との連携で、幼・小・中・高の一貫教育で縦の連携をしていくということです。国際交流事業の展開としては、野迫川村がスロバキアと交流をされています。全市町村に共通することとしまして、地域に根差した地域の教育資源の活用をされていました。いずれも教育基本法の本質、国際主義や地域主義に合致しており、基本的には正しい方向の背策を展開していらっしゃるのではないかと思います。</p> <p>では、なぜこのような取り組みが必要になるのか。1990年代の日本は半導体産業で世界をリードし、世界トップでした。京都大学の情報工学系の優秀な学生がそれらの企業へ就職していました。ところが、現在は壊滅状態になっています。各メーカーの半導体の部分を合わせ、エルピーダメモリという会社をつくりましたが倒産してしまい、日本には半導体メーカーがない状態になってしまいました。技術者は後発国へ行ってしまい、そこで用済みになるとお払い箱です。20年前に高等教育で獲得した技能がもう役に立たない時代です。</p> <p>では、世界はどう変わっているか。ドバイという国は24、5年前は砂漠があり、道路らしきものがあり、ビルが少し建ちだしている状態でした。しかし、今は世界の富が集まり、夜眠らない大都市になっています。</p> <p>やはり時代を生き抜く能力を養成していく必要があります。従来のように40年近く勤め上げる環境は消滅しています。変化に備える能力を育成していかなければいけません。変化に備えて常に学び直すことができる能力と、必要な変化への適応能力です。思考力、判断力と表現力の3つが極めて大事になります。この力をつけるために、平成28年度から学習指導要領が変わります。指導方法が変わっていくことをよく認識していただきたいと思います。</p> <p>変化に備えて学び直すことができる能力は読書力、読書量によって一番効果的につけられます。子供のときから読書をしっかり癖づけていただきたいと思います。</p> <p>必要な変化への適応能力をつけるにはICTの活用能力が必要です。これはコミュニケーション能力を世界に広げるということでもあります。</p> <p>我が国の伝統と文化、歴史をきっちり教えることが大事です。大学院生でも学会において、自分の専門分野の発表は英語でしますが、ディナーやランチでお互いの国のことを話し合う時についていけない。自分の国の伝統、文化、歴史について学んでいないので、会話の輪の中に入れないのです。ですから、これからの国際化という問題を考える際には、英語、ICTも大事ですが、自分の国のことを学び、それを発信しなければいけない。我が国の伝統、歴史、文化についてしっかり学べる環境づくりをする必要があります。地域の問題については、本日の市町村長は非常に意識した教育政策の展開を考えられていると思います。</p> <p>江田島の教育参考館というところに全国の戦死者の遺書が置かれています。各都道府県1人しかいないのですが、奈良県は吉野郡黒滝村のご出身の方で、その方の遺書を読んだのですが、20代という若い歳で、世界の情勢を踏まえ、自分の郷土のこと、日本のことを考えて、覚悟を持って戦争に行かれました。ですから、地域においては、そういう思いを持ってらっしゃった方がおられるという歴史、伝統、文化も大切にさせていただくことで、これからの世界とのつながりにつながっていくと思っております。</p>

総括	公立大学法人奈良県立大学 伊藤副理事長・学長
	<p>高見教授から本日のテーマのキーワードは予防だという発言がありました。医療、介護と教育に関しての予防というのは、個々人の人生や社会で生じる課題に対する予防にもつながるのだろうという話もありました。</p> <p>今の社会で、規範と信頼と絆という3つのキーワードがありますが、これらは教育によって大きく影響を受けるものと思います。車谷天川村長から、三つ子の魂百までというお話がありましたが、ある国では3歳プロジェクトというものがあり、幼少期の教育は非常に個人の人生や社会に影響を与えるものだと思います。まさに就学前教育の問題だと思います。</p>